

実りの秋、稲穂に学ぶ



秋晴れの
下、自転車
で田んぼ道
を行くと、
稲穂の実っ

た心地良い香りに包まれ幸せになります。

先日、「最近、『駆け落ちする』ということ
を聞かなくなったね」と言う会話から、E先生を
思い出しました。私は高校時代に腰痛に悩み、
テニス部を2年生で退部し、その時にE先生に
診察していただいたのです。先生は腰痛の原因
は体の「冷え」だと言われ、母が呼び出されま
した。当時の私はサラダが大好きで、毎晩コロ
ッケなどの横に山盛りのキャベツの千切りに
マヨネーズをかけて食べており、以後、温野菜
にするよう母が注意されました。

それから何年かして結婚し長女が誕生した
時にもE先生は、「娘を持った親の責任は勉学
をさせることでなく、衣食住を通して『冷え』
に注意し、自分の力で自然に子供を産むことが
出来る体に育てることや」と言われました。確
かに「着物」は、お腹あたりの特に冷やしてい
けない三角部分が二重になり、帯で腰回りを冷
やさないうという日本人の先人の知恵です。
それに比べ現代人の肌の露出の多さは一目瞭
然です。「食」では、真冬に夏野菜を食べる事
は普通ですし、コンビニへ行けば24時間冷た
い飲み物が手に入ります。「住」にしても、9
月の訶梨帝母が書いておられたように、3歳ま

でに育つ汗腺がクーラーで育っていないのか
も知れません。

すでに20数年前のことです。先生の説によ
れば、未婚の人が多くなり婚期が高齢化してい
る現象は、表面的には女性の社会への進出など
「社会の変化」のようで、根本には衣食住の変
化によって若い人の「体の変化」が原因だとい
うのです。つまり男女が適齢期になってもお互
いを求める本能と言いますか「生命力」が育っ
ていないと言うのです。1997年に刊行された渡
辺淳一著のベストセラー『失樂園』から「不倫」
という言葉は世に出、今でも日常よく接しま
すが、「駆け落ち」という言葉は死語に近い存在
になっているように思えます。現代劇における
ドラマや映画などでも「駆け落ち」が登場シー
ンはありません。多分、駆け落ちをするには測
り仕切れない「エネルギー」と「勢い」が必要
だからです。両者とも未経験の私の想像ですが、
不倫は年上の人と若い人というイメージがあ
り、相手が熟年者であれば「駆け落ち」に比べ
さほどエネルギーを必要としないのではない
かと思います。1993年にあった冷夏による不
作のお米を思い出します。米不足でタイ米を大
量輸入した上に「不味いと」と殆どが食べら
れることもなく家畜の餌になりタイから大批判
を受けた事件です。冷夏で育った稲は、稲穂が
付いた状態に生長していますが、もみ殻の中
身は空っぽでした。まるでE先生が危惧され
ていたような若者のようであり、それ以後、
日本国自体が活気のない衰退の道を歩んで
行きます。上の写真のおばちゃんのような
笑顔を取り戻せたら良いものです。

俊徳丸